

# 劔仁美の道徳（複式中学年）研究計画

## 1 本研究の位置付け

私は、道徳において、内容の4つの視点のうち「2 主として他の人とのかかわりに関すること」の学習で、自分とのかかわりで**道徳的価値の自覚を深める子ども**を目指す。具体的には、道徳的価値の大切さを感じながら、自分はどうかだろうと相手のことを考えることができる子どもである。

これまでの道徳授業では、資料の主人公の行為について、その理由や心情を問いながら、その行為にかかわる道徳的価値に気付かせ、道徳的行為に向かう意欲や態度を育てようとする授業が多く行われてきた。このような指導は、資料を読み取らせ「自分だったらどうするか」と資料の主人公の気持ちに立たせて考えさせているだけである。このような指導では、本当の意味で子どもは「自分だったら」と考えることはできないのではないかと。本当の意味で子どもが「自分だったら」と考えられるようにするには、資料の主人公の行為から、正しいことを学ぶことだけではなく、子ども自身が迷い考え「自分はどうかだろう。これで本当にいいのか」と、葛藤することが重要であると考えます。

そこで、私は、本研究で目指す子どもの姿に迫るために、次の点で改善を図る。

まず、資料の場면을体験させ、「自分だったら」と考えられるようなきっかけをつくる。これにより、資料と子どもの距離が縮まる。次に、問題場면을提示し、主人公の取るべき行為とその理由を考えさせ、交流させる。子どもは、既存の道徳的価値を基に主人公の取るべき行為とその理由を考える。そして、取るべき行為とその理由を交流させる。ここでの子どもは、「既存の道徳的価値」と「相手のことを思って行為を決めることは大切だ」という気持ち」とを関係付けて考える。このような子どもに、資料の解決場면을提示し、「主人公にかける言葉」として自分の考えを書かせる。子どもは、自分の考えと、相手のことを考えて行為を決めることの大切さ（道徳的価値）を結び付けて考える。このようにして、目指す姿を具現していく。

## 2 主張する働き掛け

子どもは、それぞれの生活経験や、様々な道徳的価値の既存事項をもっている。このような子どもに、次のように働き掛ける。

### 働き掛け1

**資料の場面に近い体験をさせる。**

資料の場面について、自分だったらと考えていけるようにするための働き掛けである。子どもは、それぞれに異なる既存の経験をもっている。資料に出会わせる前に、資料の場面に近い体験をさせることで、全員が共通の土台で考えていくことができる。子どもから「自分は、〇〇だと思う」などという自分がどう感じるかが出てくる。このような子どもに、次のように働き掛ける。

### 働き掛け2

**問題場면을提示し、主人公はどのようにすべきか問い、考えの理由を問う。**

個々の道徳的価値に基づいた考えを引き出すための働き掛けである。まず、資料の問題場면을提示して、資料を読み聞かせ、問題場面の状況をつかませる。次に、問題場面の状況が分かった子どもに、主人公はどのようにすべきか問い、ワークシートに解決方法とその理由を書かせる。子どもは、主人公の気持ちで、個々の道徳的価値を基に主人公が取るべき行為を判断する。その後、判断した立場ごとにネームプレートを貼るように指示し、それぞれの考えの理由を問う。子どもは、理由として「自分はこう思ったから」「相手を思ったから、こうの方がいいと思ったから」というそれぞれの立場にたって理由を述べる。数人の子どもに発表させ、「ネームプレートを移動させたい人は

いますか」と問う。プレートを移動させる子どもが出たら、理由を問う。また、理由の中で「相手のためを考えたら」という相手の気持ちに立って考えている理由が出たら、次の働き掛けを行う。

### 働き掛け3

**相手の気持ちに立たせ、取るべき行為を考えさせる。**

相手をことを考えて行為を決めることは大切という道徳的価値に気付かせるための働き掛けである。ネームプレートを移動させた子どもに、その理由を問う。子どもは、「相手のためを考えたらこっちの方がよいと思った」という理由を述べる。このような理由を述べる子どもは、相手の気持ちに立って状況を判断している。ここから「相手のためだと考えたら、どうしたらいいかな」と問う。子どもは、相手の気持ちに立って考え、ネームプレートで立場を表す。ここでの子どもは、**関係付けるすべ**を用いて、既存の道徳的価値と相手の気持ちを大切にしたらどうだろうという考えとをつないで主人公が取るべき行為を考えている。自分の考えが決まった子どもに、理由を問い発表させる。何人かの子どもに発表させ、ネームプレートの移動を確認する。移動しなくてもよいという状態になったら、次の働き掛けを行う。

### 働き掛け4

**解決場面を提示し、主人公がとった行為について考えさせる。**

自分とのかかわりで道徳的価値をとらえさせるための働き掛けである。資料の解決場面を提示し、主人公がとった行為について「自分はどう思うか」と問い、最終的に主人公がとった行為について考えさせる。子どもは、既存の道徳的価値と相手を大切に思う気持ちとをつなげて、「ぼくも、△△だと思ったから同じように思うよ。やっぱり、相手のことを考えれば〇〇だと思うから」「私は、主人公とは違う考えだったよ。だって、相手のことを考えればやっぱり〇〇だと思うから」と考える。こうして、自分とのかかわりで**道徳的価値の自覚を深める子ども**になる。

## 3 検証

### (1) 検証すること

- ① 構想した働き掛けにより、想定した「考えるすべ」を用いて、課題解決に必要な情報と既存事項とを関係付けることができたか。
- ② 構想した働き掛けにより、学びをつなぐ力を高めた姿になったか。

### (2) 検証の方法

- ① 働き掛け3を受けて、関係付けるすべを用いて、既存の道徳的価値と相手の気持ちを大切にしたらどうだろうという考えをつないで、主人公が取るべき行為を考えているかを、ワークシートの記述や発言から検証する。
- ② 働き掛け4を受けて、自分の考えとその理由、相手のことを考えて行為を決めることの大切さに触れている言葉を記述しているかどうかをワークシートで検証する。

## 4 年間の授業計画

- (1) 指定研究授業(6月) 「相手のことを考えて」(1時間)
- (2) 中間検討会(9月) 「相手を思いやり進んで親切にすることの大切さ」(1時間)
- (3) 初等教育研究会(2月) 「生活を支えている人々への尊敬と感謝」(1時間)